

第2回川口市行政評価外部評価委員会（第二部会）			
日 時	令和元年5月31日(金)9:30~11:45	場 所	水道庁舎 5階大会議室
評価委員	佐藤部会長、團野委員、増田委員、矢野委員	傍聴者数	0名
事務局	福田企画財政部長、 企画経営課：藤田課長、竹田課長補佐、田中主査、秋山主任、菊池主事		

評価事業	母子・父子福祉センター補助事業
担当課	子ども部 子育て相談課
説明者	森岡次長、今井係長、谷口主任

ヒアリング															
◆ 事業の概要について、森岡次長から説明															
◆ 説明を受けて、委員から事業に関する質疑応答															
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">質疑応答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 委員</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 担当課にて状況を良く理解していると思う。視察した際に、屋根と壁がかなり老朽化していたのが見受けられたが、今後どのくらい経費がかかってくるか計り知れない。受益者負担のない事業のため、その部分をどのように捻出すればよいか難しいところである。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>・ 部会長</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 非常に奇妙な事業だと思う。補助事業として、イベントや相談を行っているが、一番費用がかかっているのが、施設の維持管理費である。資料の4ページに記載のあるとおり、月に1回程度イベントを実施しているが、これにかかる経費はどの程度か。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 年間400万円程度の事業費のうち、事業の運営経費は25万円程度（平成30年度）である。</li> </ul> </li> <li>➢ ほぼ施設の維持管理費ということか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ そうである。</li> </ul> </li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>・ 委員</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 人件費は別か。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 人件費についても、市から社会福祉事業団に交付している補助金に含まれている。人件費の額については、175万円程度（平成30年度）である。</li> </ul> </li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>・ 部会長</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 200万円程度が事業運営費と人件費にかかっており、残りが施設の維持管理費ということか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 光熱水費も含め、200万円弱が施設の維持管理費である。</li> </ul> </li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>・ 委員</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 年間400万円程度の事業費のうち、植木の管理にかかった費用はいくらか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 樹木の管理委託費及び施設の維持管理経費が80万円程度、施設の機械警備が42万円、水道光熱費が30万円弱、その他、火災保険や消防点検がある。</li> </ul> </li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>・ 部会長</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ かなりコストのかかる建物で事業を行っている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ ご指摘のとおりである。</li> </ul> </li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>		質疑応答		・ 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 担当課にて状況を良く理解していると思う。視察した際に、屋根と壁がかなり老朽化していたのが見受けられたが、今後どのくらい経費がかかってくるか計り知れない。受益者負担のない事業のため、その部分をどのように捻出すればよいか難しいところである。</li> </ul>	・ 部会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 非常に奇妙な事業だと思う。補助事業として、イベントや相談を行っているが、一番費用がかかっているのが、施設の維持管理費である。資料の4ページに記載のあるとおり、月に1回程度イベントを実施しているが、これにかかる経費はどの程度か。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 年間400万円程度の事業費のうち、事業の運営経費は25万円程度（平成30年度）である。</li> </ul> </li> <li>➢ ほぼ施設の維持管理費ということか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ そうである。</li> </ul> </li> </ul>	・ 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 人件費は別か。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 人件費についても、市から社会福祉事業団に交付している補助金に含まれている。人件費の額については、175万円程度（平成30年度）である。</li> </ul> </li> </ul>	・ 部会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 200万円程度が事業運営費と人件費にかかっており、残りが施設の維持管理費ということか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 光熱水費も含め、200万円弱が施設の維持管理費である。</li> </ul> </li> </ul>	・ 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 年間400万円程度の事業費のうち、植木の管理にかかった費用はいくらか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 樹木の管理委託費及び施設の維持管理経費が80万円程度、施設の機械警備が42万円、水道光熱費が30万円弱、その他、火災保険や消防点検がある。</li> </ul> </li> </ul>	・ 部会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ かなりコストのかかる建物で事業を行っている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ ご指摘のとおりである。</li> </ul> </li> </ul>
質疑応答															
・ 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 担当課にて状況を良く理解していると思う。視察した際に、屋根と壁がかなり老朽化していたのが見受けられたが、今後どのくらい経費がかかってくるか計り知れない。受益者負担のない事業のため、その部分をどのように捻出すればよいか難しいところである。</li> </ul>														
・ 部会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 非常に奇妙な事業だと思う。補助事業として、イベントや相談を行っているが、一番費用がかかっているのが、施設の維持管理費である。資料の4ページに記載のあるとおり、月に1回程度イベントを実施しているが、これにかかる経費はどの程度か。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 年間400万円程度の事業費のうち、事業の運営経費は25万円程度（平成30年度）である。</li> </ul> </li> <li>➢ ほぼ施設の維持管理費ということか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ そうである。</li> </ul> </li> </ul>														
・ 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 人件費は別か。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 人件費についても、市から社会福祉事業団に交付している補助金に含まれている。人件費の額については、175万円程度（平成30年度）である。</li> </ul> </li> </ul>														
・ 部会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 200万円程度が事業運営費と人件費にかかっており、残りが施設の維持管理費ということか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 光熱水費も含め、200万円弱が施設の維持管理費である。</li> </ul> </li> </ul>														
・ 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 年間400万円程度の事業費のうち、植木の管理にかかった費用はいくらか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 樹木の管理委託費及び施設の維持管理経費が80万円程度、施設の機械警備が42万円、水道光熱費が30万円弱、その他、火災保険や消防点検がある。</li> </ul> </li> </ul>														
・ 部会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ かなりコストのかかる建物で事業を行っている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ ご指摘のとおりである。</li> </ul> </li> </ul>														

・ 委員

➤ 施設の構造や景観等が事業の目的とかい離しているように思う。この事業を実施する上で、別の公共施設等でも実施できると思うが、建物の寄贈者の意向を尊重し、現在に至っているということか。

◇ 建物の所有者より、この建物を社会福祉に、特に母子父子家庭に役立つ施設として利用してほしいという意向のもと、市が寄贈を受け、昭和59年に事業開始となった。その後、文化財に指定されたという経緯があり、担当課としても悩んでいるところである。

・ 部会長

➤ この建物は市の財産か。

◇ 寄贈を受け、建物については、昭和59年に設立した社会福祉事業団に市が無償で譲渡し、土地については、20年間で無償で貸与している。

➤ 建物の維持管理についても議論しなければならないと思うが、本当に議論しなければならないのは、イベントについてである。月1回程度イベントを行っているが、参加者が少ないように感じる。相談についても、3回のみの実施であり、どのくらいニーズがあるか分かりにくい。イベントの効果はどのようなものか。

◇ 建物のスペースを踏まえ、イベントの定員を15組30名としている。その中で、実際に応募があるのが、50%程度である。

・ 委員

➤ イベントの対象者となる母子父子家庭は、どのくらいいるのか。

◇ 現状把握していない。

・ 部会長

➤ この事業が始まった昭和59年当時は自立支援を目的としていたと思うが、現在実施している書初めやちぎり絵等の狙いとは何か。母子父子家庭同士がふれあうことを目的としているのか、または、親子の関係を目指しているのか、何を狙いとして、このようなイベントを実施しているのか。

◇ 母子父子家庭の方の教養の向上を目的とするとともに、併せてコミュニケーションを図ることも目的としている。

➤ 昭和59年当時は母子・父子家庭に関して、社会的な困難や偏見があったと思うが、現在はあまりないと思う。目的が見失われているように思えるがどうか。

◇ 担当課としても、検討していかなければならないことだと認識している。

・ 委員

➤ 社会福祉事業団に関して、高齢者、障害者、母子父子家庭等に対し、さまざまな施設を運営しているが、子ども部から社会福祉事業団に交付している補助金は、母子・父子福祉センターの運営に限定する補助金として、400万円程度を交付しているのか。

◇ 市から社会福祉事業団へ交付している補助金に関しては、それぞれの目的に限定し、補助金を交付している。子育て相談課から交付している補助金に関しては、母子・父子福祉センターの運営に関するものだけである。

・ 委員

➤ 効果を測定する際に、例えば母子生活支援施設（あさひ館）と比較する等、類似の他施設との比較が必要なのではないか。

✧ 比較に関しては、現状実施したことはない。また、あさひ館に関しては、入所施設のため、比較することは難しい。

・ 委員

➤ 講座の公募に関して、「広報かわぐち」にて行っているとのことだが、例えば母子・父子家庭の方々に登録制にて案内を出すといったこと等は行っていないのか。

✧ 行っていない。募集に関しては、「広報かわぐち」のみの対応である。

・ 部会長

➤ 他の自治体でもこのような事業は行っているのか。

✧ 行っている自治体もある。他市より問い合わせがある場合もあり、やはり事業展開が難しいとのことで、同様の懸案事項が他市でもあると認識している。

➤ 子育て相談課としては、建物の利活用は範囲外か。

✧ 子育て相談課では、そのように認識している。

➤ イベントに関しては目的を明確にする必要があると思う。目的が明確にならないのであれば、事業を縮小していくというのが一般的な考え方だと思う。この事業をやめたとしても、この建物の利活用に関して、所管するのは子育て相談課以外の課になると思うが、そうなった場合の検討に関しても、現段階では子育て相談課にて市の所有物として、活用方法を考えていかなければならないということか。

✧ 子育て相談課としては非常に難しい部分であるが、市の所有物であるので、何らかの関係するセクションにて検討する必要がある。

・ 委員

➤ 昭和 59 年より 35 年が経過し、土地に関しては 20 年間の無償貸与とのことであるが、1 度更新を行い、貸与の期間は、残り 5 年程度あるという認識でよろしいか。その間に何か、活用方法を検討できればと思うが。

✧ 事業としては非常に厳しいと認識しているが、市が寄贈を受けた建物として何もしないという訳にはいかず、また、建物自体は人の出入りがないと、朽ちてしまうため、何らかの形で人の出入りが必要となる。少ないながらも、人の出入りがあるため、現段階では現状の活用方法を取っている。

➤ 寄贈者の意思は尊重しなければならないと思うが、数十年後までこの施設を維持するのは難しい。どこかのタイミングで、他の用途での使用を検討すべきではないか。

✧ 別の用途で使用するとなった場合のアイデアについては、民間企業にも提案をいただくことで、幅広いアイデアが出てくると思う。

## ディスカッション

### ◆ 質疑応答を経て、委員同士でディスカッション

・ 部会長

➤ 事業の問題と建物の利活用を切り離して考える必要がある。この事業が、現状必要であるか疑問である。

- ・ 委員
  - 評価調書の事業活動・成果の状況について、指標の利用者数の多くが施設見学者であり、このことから施設の維持管理が当事業の目的となってしまっているように感じる。
- ・ 部会長
  - 維持管理を目的とするならば、拝観料を設ける等を行った方がよいと思う。
- ・ 委員
  - この建物を母子・父子福祉センターとしてだけでなく、他の目的と併用して使用すればよいのではないか。
- ・ 委員
  - 建物を無償譲渡、土地を無償貸与とのことだが、維持管理の費用を市で負担するならば、地代を取るといったことを行ったほうがよいのではないか。
- ・ 部会長
  - 事業運営と併せているため、社会福祉事業団も財産として認識してないのではないか。この事業の抜本的な見直しを考えるのであれば、施設の維持管理については別の問題として考え直さなければならないのではないか。あまり意味のないと見受けられる事業に施設の維持管理を併せており、現状は非効率極まりないと思う。
- ・ 委員
  - 書道教室や手芸教室に関しても、公民館等で実施することは可能である。
- ・ 委員
  - 参加者が少ないのは、場所の問題もあるのではないか。
- ・ 委員
  - 文化財のしぼりはあるのか。一度文化財に登録されると、その後、登録を解除することはできるのか。
- ・ 委員
  - この事業を運営している川口パピルスの実態がよくわからない。社会福祉事業団と川口パピルスの関係について、詳細を知りたい。
- ・ 委員
  - 母子・父子福祉センターを利用している利用者の声を知りたい。
- ・ 委員
  - 対象者数が不明なのに、事業を行っているのはおかしいと思う。
- ・ 委員
  - 川口市に母子父子家庭がどのくらいいるのかを把握することはできるのか。
- ・ 部会長
  - 対象者も不明で、ニーズも不明だが実施している。対象者について、数字を把握しているのか、把握しなくてもよいと思っているのか聞いてみたい。
  - 抜本的に見直さなければならないという雰囲気を担当課からも感じた。どのようなプランがあるか聞きたい。
- ・ 委員
  - 悩み相談の声も聞きたい。

- ・ 委員
  - 悩み相談に関しても、この施設で行う必要性はない。
- ・ 委員
  - この建物のしぼりがどの程度あるのかも知りたい。処分をしてよいものかどうか。

#### 次回に向けた確認

##### ◆ ディスカッションの結果について、部会長から事業担当課へ伝達

- ・ 部会長
  - 社会福祉事業団と川口パピルスとの関係は、どのようなものか。川口パピルスは、どのような組織なのか。
  - 施設の利用者が延べ 166 人とのことだが、可能であれば、実数を教えてほしい。また、市内のどの地域から参加している人たちなのか、難しいと思うが、可能であれば示してほしい。また、イベントに参加している利用者の感想等があれば知りたい。
  - 事業の対象者に関して、どのくらいの対象者数を算出しているのか。また、どの程度のニーズがあると算段しているのか。
  - 建物が文化財に指定されることで、建物のしぼりがどの程度あるのか。建物を譲渡しており、かつ文化財に指定されることで、どの程度不自由さがあるのか。この事業をやめた際に、最悪この建物の処分も考えなければならないが、それは大変なことか、それほどのことではないのか。
  - 担当課においても、当事業を抜本的に見直すことを視野に入れて考えているように見受けられるが、見直しとなった際には、どのようなプランを現時点において考えているのかの意見をまとめてほしい。

評価事業	在宅歯科診療事業
担当課	保健部 保健総務課
説明者	小澤次長、中森補佐、川田主査
ヒアリング	
<p>◆ 事業の概要について、小澤次長から説明</p> <p>◆ 説明を受けて、委員から事業に関する質疑応答</p> <p>質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部会長 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 6万7千円の謝礼の算定根拠は、歯科医師会が決定しているのか。歯科医師会に委託料を支払い、歯科医師会にて、配分を決定しているのか。</li> <li>✧ 休日に開業してもらおうということで、6万7千円の謝礼を支払っている。診療報酬についても、別途入ってくるが、医師を派遣した際の相場が1時間2万円程度であり、昼休みを除く7時間の勤務時間を踏まえると、他の自治体と比較しても、高い金額ではないと考えている。</li> </ul> </li> <li>・ 委員 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 日曜開業している歯科医院はかなりある。そもそも歯医者に救急患者はいるのか。2医院に依頼して実施する必要があるのか。</li> <li>✧ 昔に比べると虫歯の患者は減っており、救急の患者も減ってきていることから、見直しの時期に来ているというのは認識しているが、詰め物や差し歯がとれたので応急処置をしてほしいという患者はいる。</li> </ul> </li> <li>・ 部会長 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 資料2ページに、日曜日は1医療機関あたり2.4人とあり、GWや年末年始は13.1人と多く感じるが、平日はどのくらいか。比較対象として、平日のデータもあったほうがよいと思う。次回の委員会にて示してほしい。</li> <li>➤ 開業しているため、救急ではない医療行為も普通に行っているのか。</li> <li>✧ 救急ではない患者の対応をすることもある。</li> </ul> </li> <li>・ 委員 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 医療機関も救急医療を当番制で実施していると思うが、市から委託料が出ているのか。</li> <li>✧ そうである。</li> </ul> </li> <li>・ 部会長 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 資料3ページに歯科診療所総数が278施設とあるが、これらは全て歯科医師会に加入しているのか。</li> <li>✧ 日曜日に開業している歯科医院は、35%程度歯科医師会に加入している。歯科医師会全体で、加入率が70%程度とのことである。加入している歯科医院数が、195程度である。</li> <li>➤ 歯科医師会の加入率が低いのは意外であった。川口は都会だから低いのか。</li> <li>✧ 医師会で75%程度とのことである。また、新しく開業した歯科医院の加入があまりないことも要因である。</li> <li>➤ 歯科医師会に入ると何か拘束されることはあるのか。</li> <li>✧ そのようなことはない。</li> </ul> </li> </ul>	

➤ この数の歯科医院が通常日曜日に開業しているのであれば、あえて日曜日に開業を依頼する必要はないと思うがどうか。

✧ 担当者からもそのような意見は出ているが、歯科医師会からはそのような意見はない。

・ 委員

➤ 資料2ページで、日曜日は歯科当番医制を49日間行っており、川口市より216人患者が来ているため、1日あたり約4.4人である。日曜日開業している歯科医院が、祝日も含め52医院あるため、1医院あたり約0.085人対応できればよい。その意味では、日曜日はほぼ対応できると思う。日曜日以外では24日間実施しており、川口市より337人患者が来ているため、1日あたり約14人である。祝日対応している歯科医院は12医院あるため、1日あたり約1.17人対応できればよい。そのような数字を歯科医師会に提示したうえで、対応してもらってはどうか。

✧ 統計的な数字として、提示することはできる。

・ 部会長

➤ 診療所の分布について、街中に集中し、逆に不足している地域もあると思うが、診療所が不足している地域に開業してもらおうといったような働きかけを市から行っているのか。

✧ 現状、市から歯科医師会に対し、そのような働きかけは行っていない。

## ディスカッション

### ◆ 質疑応答を経て、委員同士でディスカッション

・ 部会長

➤ 土日祝日に開業してもらうことはとてもよいことだが、コストがかかるため、そのコストに見合うだけの成果があるのか、また、見合うにはどのくらいのコストをかければよいのか。

・ 委員

➤ 費用の問題である。税金であるため、1日あたり6万7千円というのは妥当なのか。

・ 委員

➤ かかりつけの歯科医院も日曜日に開業している場合も多いため、救急で新たな医院を探すケースはあまりないのではないかと。そのことが、この患者数に表れている。

・ 部会長

➤ 大人では余程のことがない限り、救急で歯科医院に行かないと思う。この患者数も子どもものではないか。

・ 委員

➤ 最近はあまりないかもしれないが、診療費を支払えない方へ補助を行うといったことがあったら、それは有益だと思う。

・ 部会長

➤ 算定の根拠として、6万7千円としているが、実際、歯科医院にその金額が支払われているのか。

・ 委員

➤ 日曜日の歯科当番医制は廃止してもよいと思うが、祝日の歯科当番医制に関しては必要だと思う。また、日曜日について、廃止とまではいかななくても、2医院ではなく、1医院に縮小して継続していくという選択肢もあると思う。

・ 委員

- 川口市全体の歯科医院の配置を知りたい。地域差に配慮しながら当番医制を実施しているのか。

次回に向けた確認

◆ ディスカッションの結果について、部会長から事業担当課へ伝達

・ 部会長

- 平日の利用者のデータを、可能であれば示してほしい。
- 診療所の配置に関して地域差があると思うが、診療所が少ない地域に手厚く配置するといった配慮は行っているのか。
- 市内で 52 医院が日曜日に開業しているが、そういった中で、あえてこの当番医制を実施する必要があるのか。このことに関する保健総務課の考えを知りたい。
- 日曜日の当番医制は廃止してもよいのではないかという委員の意見もあったが、その場合のシミュレーションを提示してほしい。約 1,200 万円は税金としては小さくないため、少しでも縮小していくことができるのであれば、できるところからやるべきではないか。また、日曜日において、2 医院ではなく、1 医院にした場合のシミュレーションも提示してほしい。



評価事業	市民大学事業
担当課	生涯学習部 生涯学習課
説明者	佐藤課長、園田補佐、高橋主事補
ヒアリング	
<p>◆ 事業の概要について、佐藤課長から説明</p> <p>◆ 説明を受けて、委員から事業に関する質疑応答</p> <p>質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委員 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 評価調書の「3 事業活動・成果の状況の指標②」に関して、教育委員会主催の講座のアンケートのみ記載があるが、社会教育施設主催の講座のアンケート結果も知りたい。</li> <li>☆ アンケートについて、教育委員会主催の講座についてはすべてアンケートを実施しているが、社会教育施設主催の講座に関してもアンケートを実施するよう指導をしているところではあるが、すべての講座でアンケートが実施できていないため、指標に記載はしていない。</li> </ul> </li> <li>・ 委員 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 対象者が 18 歳以上とあるが、実際の受講者の年代別の受講者数はどのくらいか。</li> <li>☆ 50 代～70 代の方が中心である。</li> </ul> </li> <li>・ 部会長 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 年齢の分布がわかるデータがあれば、次回提示してほしい。</li> </ul> </li> <li>・ 委員 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 盛人大学との関連性は、担当課が違うため、まったくないものか。</li> <li>☆ 盛人大学と市民大学の受講者の年代が共通する部分もあるが、事業の目的が異なり、市民大学については、生涯学習という観点から生きがづくりや自己実現を目的にしているが、盛人大学については、社会貢献意識が高くなる 50 歳以上の方を対象とし、この世代の経験を活かすこと、また、その世代の方々の交流の場としての目的もある。</li> </ul> </li> <li>・ 部会長 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 目的の違いや運営方法も異なると思うが、内容自体はかなり類似しているのではないか。</li> <li>☆ 内容は重なる部分も多いが、盛人大学については、大学であるため、1 年間かけて受講するが、市民大学については、数回の受講であり、気軽に学べる内容であるといったところが違いであると認識している。</li> <li>▶ 大学においても学生向けの授業と市民向けの生涯学習の講座を行っている。それと同様に、市民大学と盛人大学についても、併せて行ったほうが効率的ではないか。資源を有効に使えるのではないか。</li> <li>☆ 運営方法を検討しなければならないが、一括して実施できないわけではない。</li> <li>▶ 講座内容としては、かなり充実していると思う。PR をする場合には、市民大学や盛人大学等の類似している事業を、全て一括で広報したほうがよいのではないか。</li> </ul> </li> </ul>	

- ・ 部会長
  - 講座内容に関して、見直しを行っているのか。見直している場合は、どのような見直しを行っているのか。また、新しい講座を設定する場合は、どのように設定するのか。
  - ◇ 社会教育施設に関しては、市内7ブロックに分けているが、それぞれの担当の公民館にて、講座内容の検討を行っている。
  - 可能であれば、どの程度見直されるのか、次回データを提示してほしい。
- ・ 委員
  - 受講生の満足度はかなり高いが、講座ごとの満足度はどのようなものか、可能な範囲で示してほしい。
- ・ 委員
  - この予算で、これだけの内容の講座の運営ができるのか。
  - ◇ 予算の主なものは、講師報酬金である。また、公民館で実施しているため、会場代はかからず、講師報酬金についても、人材バンク魅学等から講師を招いているが、あまり高額ではない。また、市の職員の人件費に関しては、別途である。
- ・ 部会長
  - 特定財源は、何を指しているか。
  - ◇ 毎年リアの音楽ホールにて著名な方を招き、公開講座を行っている。500 円の入場料を設けており、その収入である。
  - 教育委員会主催の講座と社会教育施設主催の講座で分けているのはなぜか。
  - ◇ 生涯学習課のみだけでなく、公民館とともにこの事業を一体的に運営するという考えのもと、分けている。
  - 社会教育施設主催の講座については、実施場所の公民館にて、企画を行っているのか。または、ブロックごとに企画をしているのか。
  - ◇ 基本的には、実施場所の公民館にて独自に企画を行っているが、ブロックごとや生涯学習課とも連携を取りながら実施している。
  - 公民館の職員は、どのような方か。
  - ◇ 再任用職員が主である。33 公民館あり、各公民館 4～5 名の職員がいる。
- ・ 委員
  - 市民の声を聞く機会はあるのか。
  - ◇ 各公民館にて、公民館運営審議会を開催しており、その中で地域の方の意見をいただいている。

## ディスカッション

### ◆ 質疑応答を経て、委員同士でディスカッション

- ・ 委員
  - 講座内容が充実していて素晴らしい。
- ・ 部会長
  - 受講者の年齢分布のデータを次回提示していただくが、盛人大学と受講者層が類似していた場合、やはり別々に事業を実施することはもったいないと思う。もし統合するとしたら、どのような検討が必要になってくるか示してほしい。

- ・ 委員
  - 18 歳以上をターゲットとするならば、講座の内容が若い人向けではない。どのような意図があって、このような講座を開催しているのか。時間帯についても、若い方が来れる時間帯ではない。ターゲット層と講座内容が、かみ合っていない。本当に若い人をターゲットとするのであれば、講座内容や時間帯を見直す必要がある。
- ・ 委員
  - 講座ごとの年齢別受講者数等のデータがあると分析しやすい。
- ・ 部会長
  - 対象者を 18 歳以上としている定義はなにか、聞いてみたい。

#### 次回に向けた確認

#### ◆ ディスカッションの結果について、部会長から事業担当課へ伝達

- ・ 部会長
  - 受講者の年齢の分布について、可能な範囲でデータを提示してほしい。また、対象者を 18 歳以上としている定義はなにか。
  - 対象者を 18 歳以上としているが、講座の内容や時間帯については、あまり若い人を意識した内容になっていないのではないかという意見があった。どの程度、若い人に受講してほしいと思っているのか。
  - 講座ごとの満足度に関して、アンケート結果や市民の声等のデータを可能な範囲で提示してほしい。
  - 講座内容の見直しについて、どの程度なされているのか。
  - 盛人大学との違いを示してもらったが、共通点についても分析して提示してほしい。
  - 受講者の地域別の比率に関して、可能な範囲で提示してほしい。